

# 営 農 情 報

令和2年5月15日発行  
第12号

## 茎数に応じて倒伏軽減剤（植物成長調整剤）を施用しましょう！

本年の秋まき小麦の生育は平年比で約10日ほど早まっている状況です。茎数が1,500本/m<sup>2</sup>を超えている圃場も散見されており、茎数に応じて倒伏軽減剤（植物成長調整剤）の施用を検討しましょう。また、使用する薬剤に応じた散布適期を逃さぬよう注意しましょう。

### ○倒伏軽減剤（植物成長調整剤）について

薬 剤 名	使 用 時 期	10a当たり		判断時期と茎数の目安
		薬量・倍率	散布水量	
サイコセルPRO	出穂前20～10日 小麦の草丈40～60cm	200～300mL	100L	節間伸長盛期（※5月2日～12日頃） 草丈40～60cm頃 1,300本/m <sup>2</sup> 以上
カルタイムフロアブル	止葉期～出穂始期	150～200mL	100L	止葉期（5月18日～25日頃） 草丈50～60cm頃 1,200本/m <sup>2</sup> 以上
エスレル10	止葉期～出穂始期	300～500倍	100L	穂ばらみ期～出穂始 草丈70～80cm頃 900本/m <sup>2</sup> 以上
		75～125倍	25L	

※生育の早い圃場によっては、節間伸長盛期を過ぎている場合があります。その場合には葉害が懸念されることから無理な散布は控えましょう。

注1) サイコセルは高温時の散布で葉害が生じることがありますので、夕方に散布しましょう。

注2) 倒伏軽減剤（植物成長調整剤）は他の薬剤とは混用せず、重複散布にならないよう十分注意しましょう。

## 秋まき小麦幼穂形成期後の追肥について

- ・ 本年の止葉期は5月20日頃の見込となっております。
- ・ 止葉期までに葉色が落ちそうな圃場には適時追肥を実施しましょう。
- ・ 施用量は硫酸で10a当たり20～30kgとし、田植え作業と競合が想定される場合には可能な限り止葉期の前後に追肥できるよう、作業を調整しましょう。

## 春まき小麦（初冬播き）の幼穂形成期の追肥について

- ・ 幼穂形成期は、5月9日頃に迎えています。
- ・ 幼穂形成期より5～7日後に追肥を行いましょう。
- ・ 追肥量については生育を見て、窒素で4kg/10aを上限に施用しましょう。
- ・ 昨日までの降雨により、圃場条件が悪く、また田植え作業と競合が想定される場合には、可能な限り適期に近い日程で追肥できるよう作業を調整しましょう。

J A み ね の ぶ 営 農 販 売 課  
TEL 0126-67-2334 FAX 0126-67-2803